

Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ - 原因コードの修正

Document ID: 48515

Updated: 2009 年 4 月 21 日

 [PDF のダウンロード](#)

 [印刷](#)

[フィードバック](#)

関連製品

- [Cisco SC 2200 シグナリング コントローラ](#)
- [Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ](#)
- [Signaling System 7 \(SS7 \)](#)

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[原因分析](#)

[ITU Q.761 のための原因コード修正](#)

[Location コード修正](#)

[関連情報](#)

[Cisco サポート コミュニティ - 特集対話](#)

概要

このドキュメントでは、コール制御モードとシグナリング モードの両方で動作している Cisco PGW 2200 ソフトスイッチの原因コード分析機能について説明します。PGW 2200 ユーザは、顧客のネットワークに適した値に原因値を変更する必要がある場合があります。PGW 2200 Generic Analysis モジュールは、新しい原因値とロケーション値の両方の原因値を変更できます。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- [Cisco Media Gateway Controller ソフトウェア リリース 9](#)
- [Q.761 プロトコル マッピング することおよび原因および Location コードに内部-ソフトウェア リリース 9](#)
- [Cisco Media Gateway Controller ソフトウェア リリース 9 ダイアル プラン ガイド](#)
- 理由種別 ([ITU Q.850](#) を参照して下さい)
- [debug isdn q931 の接続解除原因コードの理解](#)

[使用するコンポーネント](#)

この文書に記載されている情報は基づいた on Cisco PGW 2200 リリース 7.x、9.x、およびそれ以降です。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

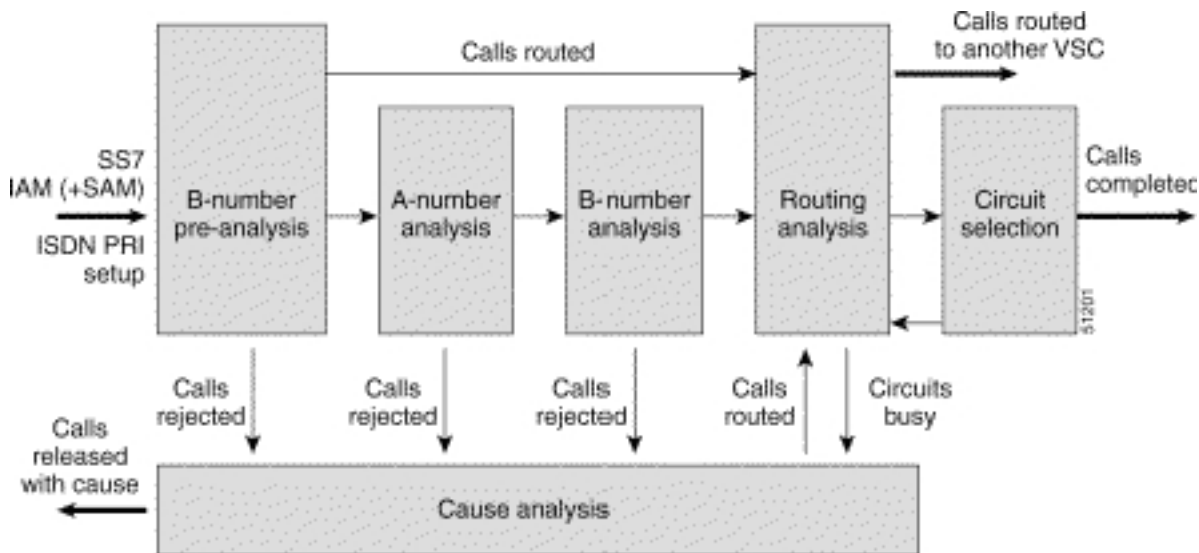
[原因 分析](#)

Cisco PGW が分析するおよびルーティング呼び出しは [図 1](#) 説明されますプロセス。この資料は原因 分析のはたらくことを一般に記述したものです。

原因 分析は RELEASE メッセージが受け取られる、またはコールを意味する種類の障害が (たとえば、番号スクリーニング失敗) 発生したらリリースする必要があるとき実行された。原因コード値が結合された原因コードや Location コード 値は別のルートへのコールの再ルーティングを含むいくつかの異なる結果を誘発する、または分析へのリターンを提供するのに使用されています内部別の宛先を見つけるために原因コード。

注: プロトコルごとのすべての外部理由種別は内部 理由種別に変換されます。ダイアルプランデータを読み込むとき使用するのは内部値です ([付録 B](#) を参照して下さい: 原因コード マッピングの情報のための [原因および Location コード](#))。

図 1: 分析によるコールフロー



ITU Q.761 のための原因コード修正

このプロセスは ITU Q.761 のための原因コードの修正を説明します。

1. リリース <x> を変更し、理由種別 <y> と取り替えるダイヤルプランを追加して下さい:


```
1-numan-add:resultset:custgrpid="0001",name="chgCause"
```

```
2-numan-add:resulttable:custgrpid="0001",name="ChangeToSubAbsent",
resulttype="CAUSE",dw1=<y>,setname="chgCause"
```

```
3-numan-add:cause:custgrpid="0001",causevalue=<x>,setname="chgCause"
```

2. リリース 原因 分析の間に、PGW はこの設定がされる確認し、ラインで 3.開始しますダイヤルプランに custgrpid ID があるように ss7Patch エントリおよび外観を。
3. この行では、どの理由種別に操作を行い、次に Line 1 におよび 2.跳んでほしいかのトリガーを規定して下さい。Line 2 で、どの理由種別によりリリース 原因 (dw1) を変更してほしいか規定して下さい。この例、リリース 理由種別 31[internal IC_Normal_clearing]または 40 で [] 147 と変更され、取り替えられます IC_Unknown。


```
PGW2200 mml> prov-sta::srcver="active",dstver="cisco1" MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12 15:20:54
M COMPLD "PROV-STA" ; PGW2200 mml> numan-add:dialplan:custgrpid="0001" .....This step is
only necessary when there is not already a dial plan MGC-01 - Media Gateway Controller
2004-02-12 15:21:13 M COMPLD "dialplan" ; PGW2200 mml> numan-add:resultset:custgrpid="0001",name="chgCause" MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-12
15:21:38 M COMPLD "resultset" ; PGW2200 mml> numan-add:resulttable:custgrpid="0001",name="ChangeToSubAbsent",
resulttype="CAUSE",dw1="147",setname="chgCause" MGC-01 - Media Gateway Controller 2004-02-
12 15:22:29 M COMPLD "resulttable" ; PGW2200 mml> numan-add:cause:custgrpid="0001",causevalue=40, setname="chgCause" MGC-01 - Media Gateway
Controller 2004-02-12 15:22:59 M COMPLD "cause" ; PGW2200 mml> numan-add:cause:custgrpid="0001",causevalue=31, setname="chgCause" MGC-01 - Media Gateway
Controller 2004-02-12 15:23:24 M COMPLD "cause" ; PGW2200 mml> prov-cpy MGC-01 - Media
Gateway Controller 2004-02-12 15:23:31 M COMPLD "PROV-CPY" ; PGW2200 mml>
```
4. sigpath からリンクグループに結合する custgrpid (ダイヤルプラン名前) をチェックして下さい:シグナリング (ネイルドされる) モードの PGW 2200 に関しては、それを prov-rtrv:ss7path:name="<ss7-path-name>" コマンドを使用して変更し、CustGrpID 値を探して下さい。コール制御 (交換) モードの PGW 2200 に関しては、prov-rtrv を使用してそれを変更して下さい: trnkgrp: name=" <trunk-group-number>" コマンドおよび CustGrpID プロパティ探される。

Location コード修正

原因コードの内で送信されるロケーションを指定するパラメータを修正するために、[ClearingLocation](#) および [DefaultLocation](#) を変更して下さい。 ClearingLocation および DefaultLocation のための /opt/CiscoMGC/etc パラメータの下で XECfgParm.dat ファイルを探して下さい。 Cisco PGW 2200 基礎ごとの a の位置を変更できます。 Cisco PGW 2200 リリース 9.3、9.4、9.5、および 9.6 のためのこの時にコール基礎ごとの a の位置を変更できません。

```
***** DETAIL *****
CIC                                50
MESSAGE TYPE                       0x0C REL - Release_Msg
INDEX TO VARIABLE PART             0x02
INDEX TO OPTIONAL PART             0x00
CAUSE IND                           0x12
  LENGTH:                          0x02 VAR.  DATA 0x82 0x91
  EXTENSION BIT                     1 diagnostic_is_not_included
  CODING STANDARD                   0 CCITT_standard
  GENERAL LOCATION 2 Public network serving the local user EXTENSION BIT 1
diagnostic_is_not_included CLASS 1 Normal event VALUE IN CLASS 1 CAUSE VALUE 17 User_busy
***** END_OF_MSG *****
```

Cisco PGW 2200 はロケーション値に「ロケーション値」が規定されないのでデフォルトで設定されません。その代り、Cisco PGW 2200 は値 "1010" (インターワーキングポイント[B1]) の一般の位置にを越えるネットワークデフォルトで設定されます。これは [ITU Q.850](#) 仕様の一部です。 [Cisco に関しては彼の、Cisco バグ ID CSCea28559 \(登録ユーザのみ\)](#) を示します。彼の原因位置に透過性を可能にする必要があります。

注: この設定のあらゆるヘルプのための [テクニカル サポート](#) とのケースをオープンする必要がある場合 PGW 2200 MDL トレースと組み合わせて SS7 スニフアーか盗聴者トレースを実行し、テクニカルサポートケースにそれを接続することを確認して下さい。

関連情報

- [Cisco PGW 2200 ソフトスイッチ テクニカル ノート](#)
- [PGW 2200 の設定例](#)
- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声と IP 通信製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)

このドキュメントは有用でしたか。 [はい いいえ](#)

フィードバックいただき、ありがとうございました。

[サポート ケースのオープン \(シスコ サービス契約< ts generic='1' nval='P%1,2%%'が必要 です \)](#)。

Cisco サポート コミュニティ - 特集対話

[Cisco サポート コミュニティ](#) では、フォーラムに参加して情報交換することができます。

このドキュメントで使用されている表記法の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

Updated: 2009 年 4 月 21 日

Document ID: 48515